

7 (参考資料) 国際交流関係年表

西暦	年号	事 項
583		百済の僧日羅が仏教弘布のため一乗院を建立
653	白雉 4	遣唐使高田根麻呂, 「薩麻之曲・竹嶋之間」で沈没 ※遣唐使の南島利用702~779年の7回(約77年間)
753	天平勝宝 5	鑑真和上, 川辺郡坊津町秋目に上陸
873	貞観 15	渤海人, 甌島に漂着
1020	寛仁 4	南蛮人が薩摩国を襲撃
1034	長元 7	高麗人が大隅国に漂着
1301	正安 3	異国船一艘甌島に来る。
1374	文中 3	島津氏, 明国へ使を派遣(明との貿易開始)
1395	応永 2	島津伊久, 朝鮮被虜人を送還
1419	応永 26	南蛮船来航
1474	文明 6	幕府, 島津氏の琉球関係を承認
1543	天文 12	ポルトガル人, 種子島に漂着(鉄砲伝来)
1549	天文 18	フランシスコ=ザビエル, 鹿児島島に上陸(キリスト教の伝来)
1561	永禄 4	貴久, 耶蘇会インド地方区長クワドロスに書簡を送る。 同年, 宣教師アルメイダ, 阿久根に来る。
1592	文禄 1	文禄・慶長の役
1598	慶長 3	
1589	天正 17	スペイン船薩摩に寄港
1598	慶長 3	朝鮮陶工が鹿児島前之浜, 東市来神ノ川串木野島平などに上陸(薩摩焼の歴史年表から)
1599	慶長 4	朝鮮人, 朴平意, 串木野市下名村に築窯
1602	慶長 7	ドミニコ会教父一行が甌島に上陸後, 鹿児島に至る。
1603	慶長 8	串木野下名村の帰化朝鮮人を伊集院苗代川に移し, 翌年, 朴平意らに命じて陶窯を築かせる
1604	慶長 9	忠恒, シャム, カンボジア渡海朱印状を受ける。
1606	慶長 11	義弘, 漂到の呂宗船員に代船し, フィリピン総督への書簡を付して帰らせる。 同年, シャム国, 島津氏に国書を送る。 家久(忠恒), 明朝冊封使に書を送り, 商船の来航を求める。 同年, 安南国の使者来航
1610	慶長 15	ゴア国使来航, 案内をうけ駿府に至る。
1622	元和 8	教父ソテロら, マニラより来航して薩摩に上陸。
1623	元和 9	儀間親方真常, 儀間村人を福建に派遣し, 製糖法を伝習させる。
1637	寛永 14	耶蘇会の教父マストリリ, 薩摩に上陸
1698	元禄 11	尚貞王, 甘藷苗を種子島久基に贈り石寺野に植栽
1705	宝永 2	山川岡児ヶ水前田利右衛門, 琉球より甘藷を持ち帰り, 郷里に試植
1708	5	イタリア教父シドッチ, 屋久島上陸
1736	元文 1	琉球より孟宗竹2株が送られ, 磯別邸に植栽
1826	文政 9	重豪, 斉彬および奥平昌高と共にシボルトと会談
1837	天保 8	米船モリソン号山川沖に碇泊, 家老島津久風, 砲撃して退去させる。
1862	文久 2	生麦事件起こる。
1863	3	薩英戦争 英国と和議成立
1865	慶応 1	新納久修, 五代友厚, 松本弘安ら渡英留学生を率い, 串木野羽島を出発
1866	慶応 2	英国公使パークス, 軍艦にて鹿児島を訪れる。 同年, 岩下方平ら, パリ万国博覧会へ派遣, 出国
1869	明治 2	イギリス人医師ウイリアム・ウイリスが来鹿し医学校建つ。
1885	明治 18	種子島にアメリカ商船カシミア号が漂着し, 乗組員が島民に救助される。
1891	24	ロシア皇太子, ギリシア皇子が来鹿する。

西暦	年号	事 項
1894	明治 27	日清戦争
1904	37	日露戦争
1906	39	英国コンノート殿下が来鹿する。
1941	昭和 16	太平洋戦争
1946	21	GHQにより、北緯30度以内の南西諸島（奄美群島）が日本本土と行政分離される。
1947	22	鹿児島港が貿易港に指定される。
1953	28	ブラジルへ本県から戦後第1回移住（5名） 奄美群島が日本に復帰
1960	35	鹿児島市とナポリ市（イタリア）が姉妹盟約締結
1965	40	ジョージア州（米国）知事一行、鹿児島を親善訪問
1966	41	鹿児島県とジョージア州が姉妹盟約締結
1967	42	ジョージア州から親善使節団一行（42名）来鹿
1972	47	鹿児島空港開港 国際航空路線鹿児島－香港線開設 国際航空路線鹿児島－ナウル線開設
1973	48	ジョージア州から親善使節団一行（40名）来鹿
1974	49	鹿児島市とパース市（オーストラリア）が姉妹盟約締結 親善使節団一行（53名）ジョージア州訪問
1976	51	姉妹盟約10周年を記念し親善使節団一行（98名）ジョージア州を訪問
1977	52	国際航空路線鹿児島－パプアニューギニア線開設（昭和55年10月廃止） ジョージア州知事一行（30人）来鹿
1978	53	北米・南米等友好親善使節団一行、在伯鹿児島県人会65周年記念式典出席、並びにジョージア州訪問
1979	54	クィーンエリザベス2世号（67,000ト）が鹿児島港に寄港 鹿児島大学留学生会館がオープン 串木野市とサリナス市（米国）が姉妹都市盟約締結 国際航空路線鹿児島－グアム－ナウル線開設
1980	55	国際航空路線鹿児島－シンガポール線開設 ブラジル鹿児島県人会館落成 第1回鹿児島・香港交流会議開催 指宿市とロックハンプトン市（オーストラリア）が姉妹都市盟約締結
1981	56	第2回鹿児島・香港交流会議開催 姉妹盟約15周年を記念してジョージア州知事一行（90名）来鹿
1982	57	鹿児島市と長沙市（中国）が姉妹都市盟約締結 第3回鹿児島・香港交流会議開催 第1回鹿児島・シンガポール交流会議開催 ジョージア州知事一行（60名）来鹿
1984	59	第2回鹿児島・シンガポール交流会議開催 第4回鹿児島・香港交流会議開催 与論町とミコノス市（ギリシア）が姉妹都市盟約締結
1985	60	アジア青年祭INかごしま開催 第3回鹿児島・シンガポール交流会議開催
1986	61	ジョージア州で開催された姉妹盟約20周年記念祭に、知事一行（64名）が鹿児島から参加 第5回鹿児島・香港交流会議開催 桜島町とリポン市（米国）が友好都市盟約締結

西暦	年号	事 項
1987	昭和 62	第4回鹿児島・シンガポール交流会議開催
1988	63	国際航空路線鹿児島－香港線（ドラゴン航空）開設 鹿児島国際火山会議開催 第6回鹿児島・香港交流会議開催 ブラジル鹿児島県人会創立75周年記念式典に知事一行（100名）が鹿児島から参加
1989	平成 元	第5回鹿児島・シンガポール交流会議開催 大韓民国全羅北道と友好協力に関する共同宣言に調印
1990	2	国際航空路線鹿児島－ソウル線（大韓航空）開設 全羅北道との交流促進のため知事一行，ミッション団訪韓 第7回鹿児島・香港交流会議開催 天城町とシライ市（フィリピン）が姉妹都市盟約締結 根占町とコヤ県（ギニア） ” 鹿児島市とマイアミ市（米国） ”
1991	3	第6回鹿児島・シンガポール交流会議開催 姉妹盟約25周年記念式典のため知事一行（67名）がジョージア州訪問 川内市と常熟市（中国）が姉妹都市盟約締結 大口市と南海郡（韓国）が ”
1992	4	台湾線定期チャーター便就航（中華航空） 第8回鹿児島・香港交流会議開催
1993	5	鹿児島・ポルトガル友好450周年記念事業の開催 第7回鹿児島・シンガポール交流会議開催 西之表市とヴィラ・ド・ビスポ市（ポルトガル）が姉妹盟約締結 ガーナ共和国大統領が来鹿 ポルトガル大統領が西之表市を訪問 長島町と吉祥面（韓国）が姉妹都市盟約締結
1994	6	鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターオープン ブラジル鹿児島県人会創立80周年記念式典に知事一行（85名）が鹿児島から参加 第1回鹿児島・全羅北道交流会議開催 大韓民国全羅北道と友好協力推進に関する共同宣言調印5周年に関する確認書に署名 知事マカオ及び中国江蘇省訪問
1995	7	第9回鹿児島・香港交流会議開催 長島町と仁川広域市江華郡吉祥面が姉妹盟約締結 名瀬市とナカドゥチェス市（アメリカ）が姉妹都市盟約締結 頼娃町と浙江省杭州市西湖郷（中国）が友好協力宣言書に調印 第8回鹿児島・シンガポール交流会議開催 入来町と晋戈浜鎮（現，馬陸鎮）（中国）が友好交流協議書締結 隼人町と耀県（現，耀州区）（中国）が友好関係合意書締結 中華人民共和国江蘇省長来鹿
1996	8	第2回鹿児島・全羅北道交流会議開催 第5回日米草の根交流サミット大会開催 姉妹盟約30周年によるジョージア州表敬訪問，総務部長一行（17名） ブラジル鹿児島県人会高齢者招待事業（20名来鹿） 釜山線定期チャーター便就航（大韓航空）
1997	9	第10回鹿児島・香港交流会議開催 かごしま世界帆船まつり開催 第9回鹿児島・シンガポール交流会議開催 和泊町と望牛墩鎮（中国）が友好都市盟約締結 第3回鹿児島・全羅北道交流会議開催

西暦	年号	事 項
1998	10	第11回鹿児島・香港交流会議開催 英国祭98開催 第1回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 ブラジル鹿児島県人会創立85周年記念式典に知事一行（83名）が鹿児島から参加 薩摩焼発祥400周年事業開催
1999	11	日韓閣僚懇談会の鹿児島開催（日本側閣僚6名，韓国側閣僚5名が来鹿） アジアかごしまクラブ設立（香港，シンガポール，韓国全羅北道） ブラジル鹿児島県人会高齢者招待事業（8名来鹿） 宮之城町と浙江省安吉県（中国）が友好都市盟約締結 南カリフォルニア県人会100周年記念行事開催 第10回鹿児島・シンガポール交流会議開催 第4回鹿児島・全羅北道交流会議開催 ザビエル上陸450周年事業開催
2000	12	第2回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 世界自然遺産会議開催 霧島町とソノラ市（アメリカ）が姉妹都市盟約締結
2001	13	第12回鹿児島・香港交流会議開催 第3回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 第5回鹿児島・全羅北道交流会議開催 第11回鹿児島・シンガポール交流会議開催 ジョージア州姉妹盟約35周年記念行事の開催 世界室内自転車競技選手権日本大会が加世田市で開催 黒田清輝通り命名式典出席（副知事一行，フランス）
2002	14	第4回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 李鵬中国全国人民代表大会常務委員会主任が鹿児島県を訪問 第13回鹿児島・香港交流会議開催 日韓自治体友好交流会議開催 加世田市と江蘇省宿遷市（中国）が友好都市盟約締結
2003	15	第5回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 徳之島町，天城町，伊仙町と清道郡（韓国）が友好協定書締結 南加鹿児島県人会ヘリテージ・クラブ創立20周年記念里帰り頭脳交流事業実施 川辺町と淳昌郡（韓国）が友好協定締結 第6回鹿児島・全羅北道交流会議開催 ブラジル鹿児島県人会創立90周年記念式典に副知事一行（112名）が鹿児島から参加
2004	16	第6回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 第12回鹿児島・シンガポール交流会議開催 アジアかごしまクラブ交流会議開催 日韓首脳会談の鹿児島開催 第14回鹿児島・香港交流会議開催
2005	17	第7回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 第13回鹿児島・シンガポール交流会議開催 第7回鹿児島・全羅北道交流会議開催
2006	18	第8回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催 第15回鹿児島・香港交流会議開催 第9回鹿児島県・江蘇省交流協議会開催
2007	19	第8回鹿児島・全羅北道交流会議開催 第10回鹿児島県・江蘇省交流協議会
2008	20	第14回鹿児島・シンガポール交流会議 第15回鹿児島・香港交流会議開催 ブラジル鹿児島県人会創立95周年式典に知事一行が鹿児島から参加 第11回鹿児島県・江蘇省交流協議会

西暦	年号	事 項
2009	21	第1回鹿児島県・全羅北道交流協議会 第12回鹿児島県・江蘇省交流協議会 南加鹿児島県人会創立110周年
2010	22	第15回鹿児島・シンガポール交流会議 第17回鹿児島・香港交流会議開催
2011	23	第13回鹿児島県・江蘇省交流協議会 第2回鹿児島県・全羅北道交流協議会 第14回鹿児島県・江蘇省交流協議会
2012	24	第16回鹿児島・シンガポール交流会議 アルゼンチン鹿児島県人会創立100周年記念式典に知事一行が鹿児島から参加 第18回鹿児島・香港交流会議
2013	25	第15回鹿児島県・江蘇省交流協議会 鹿児島県と清華大学（中国・北京）がMOU（包括協定）を締結 ブラジル鹿児島県人会創立100周年記念式典及びパラグアイ鹿児島県人会創立50周年記念祭に副知事一行が鹿児島から参加 アジアかごしまクラブ合同会議
2014	26	第3回鹿児島県・全羅北道交流協議会 第17回鹿児島・シンガポール交流会議 第19回鹿児島・香港交流会議 第17回鹿児島県・江蘇省交流協議会 南加鹿児島県人会創立115周年
2015	27	英国留学生派遣150周年記念 薩摩スチューデント派遣事業 第4回鹿児島県・全羅北道交流協議会
2016	28	第19回鹿児島・シンガポール交流会議 第18回鹿児島県・江蘇省交流協議会 ペルー鹿児島県人会創立100周年記念式典に副知事一行鹿児島から参加 第20回鹿児島・香港交流会議
2017	29	第19回鹿児島県・江蘇省交流協議会 第5回鹿児島県・全羅北道交流協議会 知事ベトナム訪問（ベトナム政府農業農村開発大臣，文化スポーツ観光大臣及びホーチミン市人民委員会委員長との会談等） 明治維新150周年
2018	30	第19回鹿児島・シンガポール交流会議 第20回鹿児島県・江蘇省交流協議会 第21回鹿児島・香港交流会議 鹿児島県と英国のロンドン・カムデン区及びマンチェスター市と友好協定を締結 ブラジル鹿児島県人会創立105周年記念式典に知事一行鹿児島から参加 明治維新150周年記念 薩摩スチューデント派遣事業 鹿児島県人世界大会
2019	31	第21回鹿児島県・江蘇省交流協議会 ベトナム旧正月（テト）フェスタ開催 鹿児島県とジョージア州の姉妹盟約に係る確認書の調印・取り交わし 南加鹿児島県人会創立120周年記念祝賀会に知事一行が鹿児島から参加 鹿児島県・全羅北道交流30周年記念行事
2020	2	第6回鹿児島県・全羅北道交流協議会 第20回鹿児島・シンガポール交流会議 第22回鹿児島県・江蘇省交流協議会（書面開催）
2021	3	第23回鹿児島県・江蘇省交流協議会（書面開催） 第22回鹿児島・香港交流会議（書面開催）

資料：「鹿児島県の歴史」原口虎雄著，「鹿児島（県政）35年のあゆみ」鹿児島県広報協会
「鹿児島県の歴史」原口泉，永山修一，日隈正守，松尾千歳，皆村武一著